

診察室こぼれ話

動脈硬化という言葉はよく耳にされるとおもいます。これは、動脈の壁にコレステロールが原因となってプラークというかたまりが溜まることで、動脈の血管が狭くなったり、血管壁が固くなって弾力性や柔軟性を失った状態になることをいいます。動脈硬化は自覚症状がないまま進行し、脳卒中や心筋梗塞といった生命に関わるさまざまな病気を引き起こすことから「サイレントキラー（沈黙の暗殺者）」とも呼ばれています。

動脈硬化が進行する原因は、主に加齢や生活習慣病です。高血圧・糖尿病・脂質異常症といった生活習慣病は、血管に負担をかけ、血管を傷つけて動脈硬化を促進します。

当院では心電図と血圧脈波検査が一体化した器械を新しく導入しました。今までも別々の器械があったのですが、器具を装着するのに時間がかかり、検査されるみなさまにご負担をおかけしておりました。これからはより簡単に検査できるようになりました。この器械で血圧脈波検査を行い、血管の硬さや詰まり具合を測定し、動脈硬化の進行度、いわゆる「血管年齢」を知ることができます。四肢の血圧を計測するため、血圧を測るときのカフを両手両足につけて加圧します。血圧測定と同様、少し締め付けられる感じはしますが、痛みはなく、5分ほどで終わります。



この検査で得られる情報は2つあります。1つはCAVI（キャビィ）という数値で表すものです。これは、心臓の拍動が血管に伝わる速度を測定し、動脈の硬さの程度を表す指標です。動脈は血液を全身に送るポンプの役目を果たしていますが、ポンプの内側の圧力（血圧）が変化したときのふくらみ具合をみることによって、ポンプのしなやかさ、つまり動脈のかたさがわかるというものです。動脈硬化症が進んでいるほど、血管のしなやかさはなくなり、CAVIの値は高くなります。

もう1つが、足の動脈の詰まりを表す指標で「ABI（エービーアイ）」といいます。足首の血圧を横になった状態で測定すると、健康な人では腕の血圧と同じくらい、あるいは少し高い値となります。しかし足の動脈が詰まっていると、腕の血圧に比べて足首の血圧は低くなります。そのため「腕の血圧」と「足首の血圧」の比をみて足の動脈の詰まりを診断します。また、その症状は「足の痛み」としてあらわれることが多いといわれています

CAVIの値は性別、年齢によって平均値がわかっています。測定して得られた値からその人の血管年齢を知ることができます。

あれこれ情報版



年未年始から3月に至るまで、インフルエンザが大流行しました。初期からA型とB型が混在するという珍しい流行の仕方でした。高熱や倦怠感がないケースもよくみられました。



血管伸展性（血管年齢）を計測する器械を新調し、みなさまには検査を受けていただきやすくなりました。心電図検査と同時に受けましょう。



今年は2年ごとの診療報酬の改定に当たる年です。4月から点数が変更となり、窓口の会計が少しずつ変わる方もおられると思います。ご不明の点などはお気軽に受付へお訪ねください。



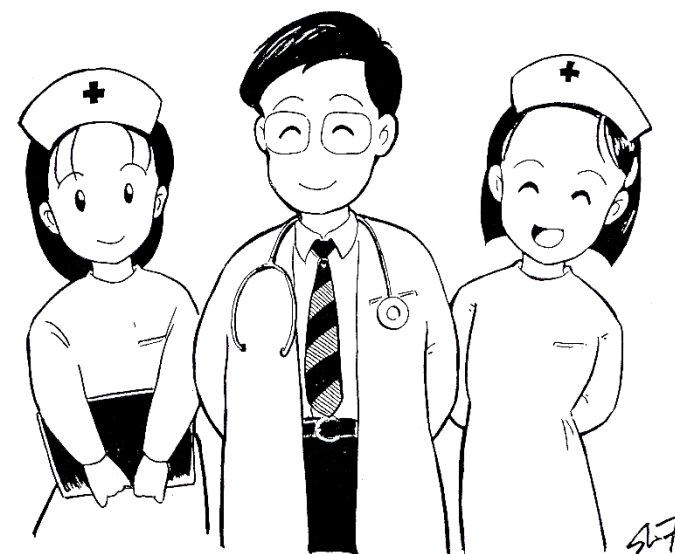
ただいま、看護師さんを募集中です。勤務時間、曜日などは相談可能です。お気軽にお問合せください。



サクラさくさく・・・新しいスタートを切るみなさま、張り切ってまいりましょう！！

すこやか通信

'18 3-4月号 Vol.123



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696